

阿波おどりネクストモデル構築事業

検 証 結 果 報 告 書



阿波おどり実行委員会

目 次

1	開催概要	1
2	会場レイアウト	2
3	検証結果①「観客（来場者アンケート）」	4
4	検証結果②「踊り手」	8
	(1) 踊り連検証結果	8
	(2) 控室	12
	(3) 踊り連の移動	14
	(4) 踊り連の待機	15
	(5) 演出方法	16
5	検証結果③「運営」	18
	(1) 検温・体調確認	18
	(2) 観客の入場	19
	(3) デジタルチケット	21
	(4) 観客席の配置	23
	(5) 観客の退場	24
	(6) 仮設トイレの設置	25
	(7) 会場の清掃・消毒	26
	(8) 参加連の募集	27
	(9) 取材の受付	28
6	次年度に向けた改善アイデア	29
	(1) 観客に関するアイデア	29
	(2) 踊り手に関するアイデア	32
	(3) その他に関するアイデア	34

1 開催概要

開催趣旨

2020 阿波おどりは新型コロナウイルス感染症の拡大により戦後初の中止となった。
未だに感染症収束の見通しは立たず、ニューノーマル時代の開催方法が課題となっている。
そのため、400 年以上の歴史を有する阿波おどりの伝統の灯を絶やさぬよう、来年度の阿波おどりの開催に向け感染症対策の検証を兼ねた実証イベントを開催したものの。

主催者

主催：阿波おどり実行委員会、共催：徳島県、徳島市、協力団体：阿波おどり団体
※ 本事業は、観光庁「あたらしいツーリズム」の一環で実施した。

開催日時

令和2年11月21日(土)・22日(日)
【1部】開場 10:00 / 開演 11:00-12:00 【2部】開場 12:30 / 開演 13:30-14:30

開催場所

藍場浜公園(徳島県徳島市藍場町)

開催プログラム

11月21日(土)：徳島県阿波踊り協会(15連)、舞きょう連
11月22日(日)：阿波おどり振興協会(14連)、美粋遊、きずな、一心大道

入場者数及び出演者数

日付	入場者数			参加連/人数
	1部	2部	合計	
21日(土)	693人	632人	1,325人	16連 / 164人
22日(日)	701人	649人	1,350人	17連 / 390人
合計	1,394人	1,281人	2,675人	33連 / 554人

会場等での主な感染症対策



会場全体をカラーコーンで仕切って規制



踊り手用の待機場所を確保



待機場所に 1.5m 間隔のマーカーを設置



検温所 (3列×2か所)



体調不良者を受け入れる救護所



検温所からチケットブースへの動線



観客席は3席分の間隔を確保



放送席にはパーテーションを設置



連ごとに広い控室を確保



川沿いの遊歩道から連を誘導



密集回避のため仮設トイレを設置



人だかりを避けるため目隠しを設置



栈敷入口にアルコールスプレーを設置



観客入れ替え時のふき取り消毒の実施



スタッフはマスク・フェイスガード着用

3 検証結果①「観客（来場者アンケート）」

アンケート概要

【調査日】令和2年11月21日（土曜）・22日（日曜）

※ 12月13日（日曜）を回答期限としてメールでも回答依頼を行った。

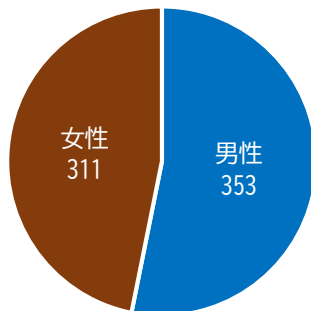
【調査対象】阿波おどりネクストモデルの観覧者

【調査方法】Google フォームを利用したWeb アンケート

【回答数】664件

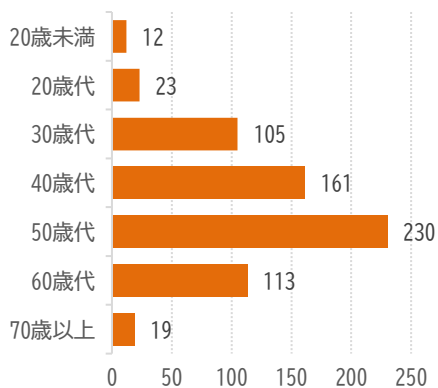
回答者の属性

① 性別



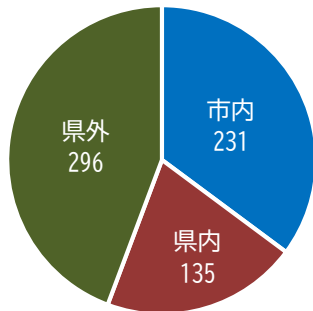
回答	件数	割合
男性	353件	53.2%
女性	311件	46.8%
合計	664件	100.0%

② 年代



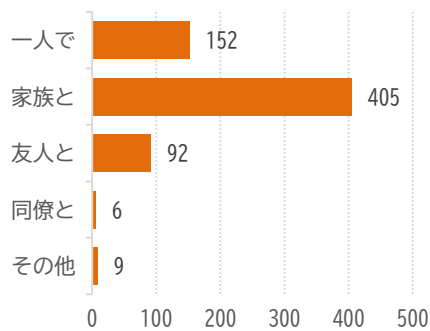
回答	件数	割合
20歳未満	12件	1.8%
20歳代	23件	3.5%
30歳代	105件	15.8%
40歳代	161件	24.2%
50歳代	230件	34.6%
60歳代	113件	17.0%
70歳以上	20件	3.0%
合計	664件	100.0%

③ 居住地



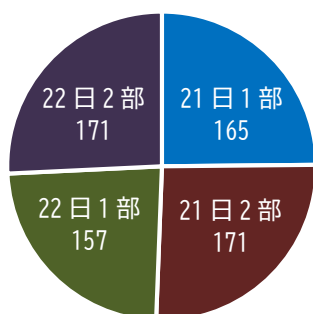
回答	件数	割合
徳島市内	231 件	34.9%
徳島県内	135 件	20.4%
徳島県外	296 件	44.7%
合計	662 件	100.0%

④ 訪問形態



回答	件数	割合
一人で	152 件	22.7%
家族と	405 件	61.2%
友人と	92 件	13.9%
同僚と	6 件	0.9%
その他	9 件	1.3%
合計	664 件	100.0%

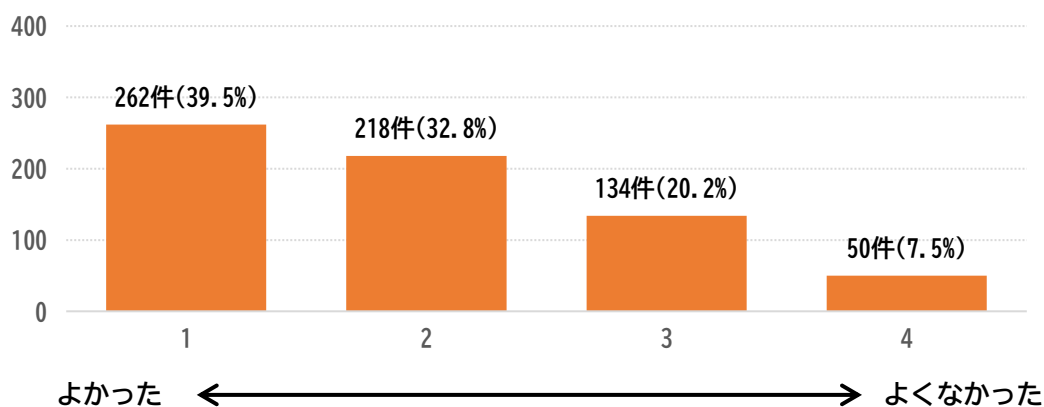
⑤ 観覧した公演



回答	件数	割合
21日・1部	165 件	24.8%
21日・2部	171 件	25.8%
22日・1部	157 件	23.6%
22日・2部	171 件	25.8%
合計	664 件	100.0%

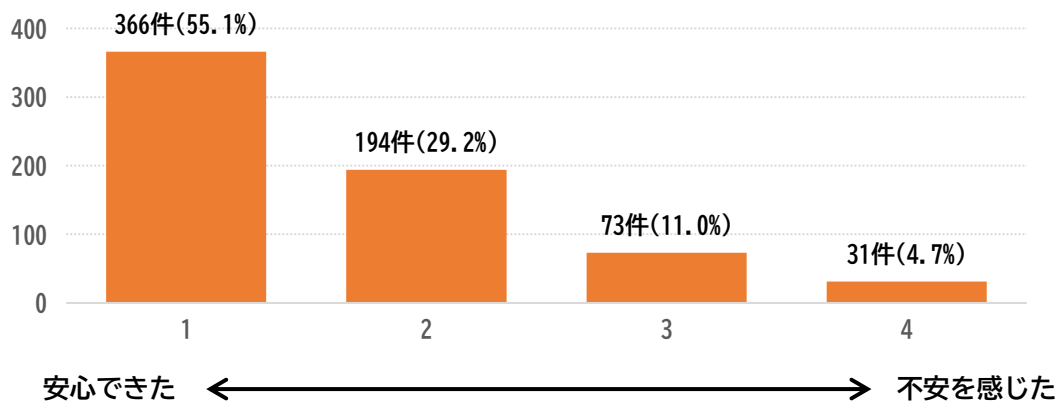
公演の満足度（4段階評価）

- 今回の公演について7割以上の観客が「よかった」と評価した。
- 踊り連はコロナ対策のためマスクを着用したり、ソーシャルディスタンスを確保したりといった対策を行ったが、阿波おどりの魅力が低下するという意見も寄せられた。



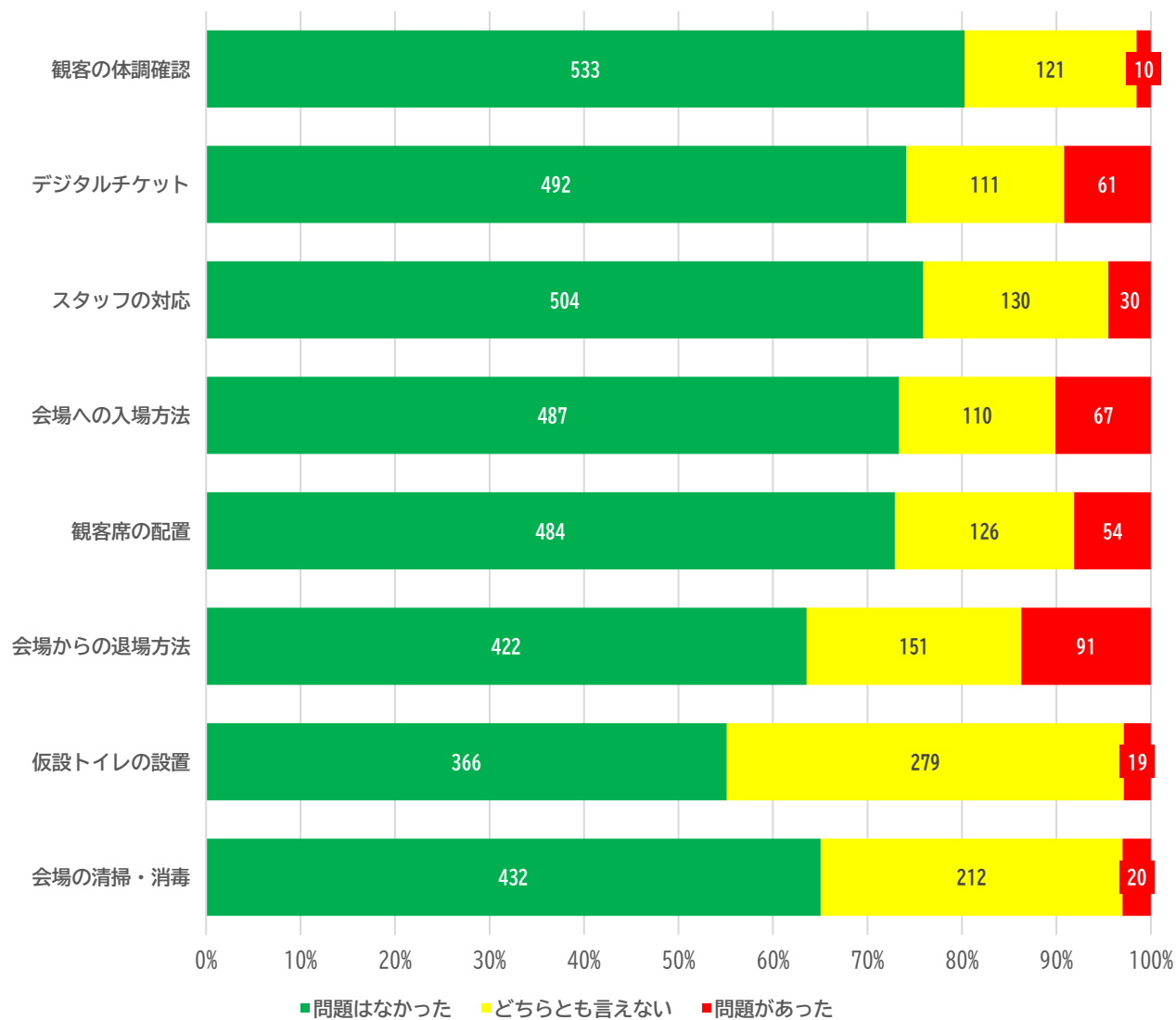
感染症対策の安心度（4段階評価）

- 感染症対策について8割以上の観客が「安心できた」と評価した。
- 具体的な改善点として「観客席で指定席を守らず移動する者が多かった」「退場方法のアナウンスが分かりにくかった」「アルコール消毒が少ない」「スタッフの誘導が少ない」「デジタルチケット確認時のスタッフとの距離が怖い」などの意見が寄せられており、本番に向けては改善を図る必要がある。
- 踊り手のマスクやフェイスシールドは屋外イベントのため必要ないという意見と、不安なのでつけて欲しいという両面の意見が出されている。



具体的な感染症対策に関する評価

- 具体的な感染症対策について概ね問題はなかったという回答が大半を占めた。
- 最も問題があったと評価された項目は「会場からの退場方法」であり、「会場への入場方法」、「デジタルチケット」が続いており、本番に向けてのオペレーションの改善が必要である。
- 「仮設トイレの設置」や「会場の清掃・消毒」は利用していなかったり、その場面を見ていなかったりするため、「どちらとも言えない」という意見が多く出されている。



4 検証結果②「踊り手」

(1) 踊り連検証結果

出演内容

① 徳島県阿波踊り協会



【出演日】

令和2年11月21日（土曜）

【出演者数】

1部：151人、2部：151人 延べ：302人

【プログラム】

第一部、第二部とも、徳島県阿波踊り協合同連による45分間の流し踊りを行う進行プログラムとした。第一部では、合同連の演舞の後に一般連一連による演舞を行い、第二部では、一般連一連による演舞の後に合同連の演舞を行った。

踊り子についてはマウスシールドかマスクを、鳴り物の笛パートについてはフェイスシールドを、その他はマウスシールドを着用して演舞を行った。

② 阿波おどり振興協会



【出演日】

令和2年11月22日（日曜）

【出演者数】

1部：315人、2部：316人 延べ：631人

【プログラム】

第一部、第二部とも同様の進行プログラムとし、総勢300人余りを三つの連に編成し、一連を100人余りで構成した。

一番目は「天水連、新ばし連、天保連、葉月連」で「踊れる幸せ」を、二番目は「のんき連、扇連、さゝ連、阿波連、無双連」でコロナの早期終息と健やかな毎日を心から願って「希望の光」を、三番目は「阿呆連、水玉連、浮助連、阿波鳴連、若獅子連」で生きる喜びをダイナミックに「命のきらめき」をテーマに演舞を行い、フィナーレとして300人余りを一つの連としたプログラムを披露した。

検証イベントを通して得られた主な課題と対応方針

① 練習に関すること

協会	課題	対応方針
徳島県阿波踊り協会	練習場所が全体練習をするにはスペース的に難しく、各パートに分けて練習するか人数を絞るなどの工夫が必要となる。	継続してガイドラインを参考にし、注意を図りながら練習を行う。 また、各連で人数（規模）によって練習方法を工夫する。
	休憩中も各人がソーシャルディスタンスを心掛けることが必要。	
阿波おどり振興協会	協会として活動するときは大規模な練習会場を確保出来るため十分な空間を確保しての練習が可能であるが、個々の連では新たに広い練習場所の確保が難しい。 そのため、ガイドラインの広さの基準を満たさないときは、練習人員の制限や複数連で大きな会場を確保するなどして練習を行ってきたが、今後、各連が練習を本格的に再開し、広い屋内施設を確保することが困難になることが予想される。	徳島市内で練習をしていない連もあり、練習会場の使用料や空調設備の使用料、駐車場の問題もあるため、練習会場の確保は各連に任せることになる。 冬季の練習は屋内での練習になり制約が出てくるため少人数での練習になるが、本番が近づくと公園などでの練習も可能になるので、大規模な練習はそれまで待つことになる。
	室内での練習時に換気のために窓を開けておくと周辺へ音が漏れ、付近からクレームが来ることが想定される。	

② 控室及び演舞場への移動に関すること

協会	課題	対応方針
徳島県阿波踊り協会	踊り子の動線上に一般の方がいたことや観客の検温場所への入口と出演者の動線が交差した場所が気になった。屋外ではあるが観客等と接触しないようにするには、もっと工夫が必要だったと思う。	移動方法や待機の方法については各連でも検討する必要があるため、継続して協議する。
阿波おどり振興協会	着替え用にブルーシートを使用したけど、どうしても着替えのためのブルーシートに集まってくるようになったため、控室で連員間の適切な距離を確保することが難しかった。	シートより机と椅子により一定の間隔を確保して、自身の物は机に、待機は椅子で行うことにより動きを制限することが出来る。
	連員には出来る限り自宅での着替えを依頼したが、夏衣装であることから寒さの問題もあり、少数の者（女性）でしか実現しなかった。	
	今回は食事を用意しなかったこと、飲み物は個人の判断でお願いをしたことにより世話人の移動が控えられたが、弁当等の飲食を行うときは世話人や連員の移動を調整する必要がある。	屋内での飲食は十分な広さを確保する必要がある。出来ないときは時間に余裕を持たせ順番に食事を取る。

協会	課題	対応方針
阿波おどり 振興協会	衣装への着替えに鏡が必要で、控室によれば鏡がなく、トイレの鏡を使用することになる。トイレが階に一か所であったため、混雑が見受けられる場面もあった。	自宅で着替えてきても出演前には鏡が必要となるため、様々な方法で確保し、密にならないようにする。
	控室から屋外へ移動するためにエレベーターの使用で密を回避するために、どうしてもエレベーター前で待機する時間が長くなる。特に階が上の場合、女性、大太鼓を持参する者はエレベーターを使用することになる。 先の連に続いて待機場所に移動することとし、先の連との間隔は取ってあったが、少しずつそれぞれの集団が分散して繋がってしまった。	棧敷周辺での待機場所は、他の連とある程度の距離を取ることとする。 棧敷周辺での待機場所はどうしても密になりかねないため、演舞場間の移動は極力裏道を利用し、棧敷入り口の担当者への連絡を密にする必要はあるが、少し手前で待機する。

③ 演舞場(整列～入場～演舞～退場)に関すること

協会	課題	対応方針
徳島県阿波 踊り協会	待機中も間隔を空けるとかなりのスペースが必要となり、連単位となるとスペース的に問題があった。	踊り込みまでの待機の方法、踊り方（演出方法）やかけ声など、みんなで知恵を絞り、今までの概念を捨てた演出方法や見せ方も検討していく。
	マウスシールドを着用して踊ることは可能であるが、マスクは息苦しく、特に夏は熱中症になることが予想される。	
	今までの演出では密になるような演出が多く、今回は流しながらの簡単な演出しかできなかった。	
	かけ声も自粛したが盛り上がりには欠けた感じがした。	
阿波おどり 振興協会	大きな連になってくると待機場所で間隔を確保するためには、踊り子の先頭が棧敷席の中まで入って隊列を組む必要があった。	連の先頭が棧敷の中まで入り整列、棧敷中央での鳴り物の演奏は、連の規模、パフォーマンスによれば必要になってくる。適宜、鳴り物陣にマスク等の予防措置をする必要が出てくる。
	鳴り物数人が棧敷の中央まで入ってその場で演奏することもあり得るが、観客との距離が短くなることに加え、鳴り物と踊り子が対面ですれ違うようになる。 鳴り物が踊り子や観客と向かい合わないよう出口側を向くことも考えられるが、そうするとどうしても音が合わなくなる。	

協会	課題	対応方針
阿波おどり 振興協会	<p>入り口付近の状況によれば複数の連が待機することは難しい状況となり、少人数の連を次の大人数の連が飲み込むような形態になる恐れがある。</p> <p>また、整列に時間がかかると、その間に栈敷内の前の連が出口付近まで進んでしまうため、少しでも多くの連を栈敷内に誘導することが出来なくなる恐れがある。</p>	<p>栈敷入り口で整列するまでの待機場所の確保は密を避けるため、栈敷入り口より少し離れた場所で確保する必要がある。</p> <p>栈敷間の移動であれば、ある程度は明かりのある中間地点、裏通りなどで待機する。</p>

実行委員会に対する要望事項

- 新型コロナウイルス感染防止対策を講じた運営や待機場所の確保。
- 屋内のステージでの出演は控室の確保が重要であり、出演連数と男女別の部屋が必要になる。
- 屋内のステージ等の阿波おどりは踊りの技術向上には有効だが、踊る喜びを味わうことは出来ないため、多くの方と一体となって踊れるようお願いしたい。
- 出演場所を決めるときに連の移動をできる限り少なくしてほしい。
- 踊り連の栈敷間の移動を行う道を決めて、その所要時間を見越して出演時間を決めてほしい。
- 栈敷以外の踊りは、観客がいて照明のある明るい場所を使用して輪おどりをしている。主要な裏通りで照明のある流し踊りが可能な場所の設置等、踊り連を分散させる対策をしてほしい。

踊り手側で本番までに準備・検討すべき事項

■ 練習時における感染予防

協会作成の感染拡大予防ガイドラインに基づき、感染者を出さないよう注意を払うとともに各連に周知していく。ソーシャルディスタンスを意識し、所有物の貸し借りは行わない。

■ 演出方法の検討

密を避ける見せ方、掛け声の出し方などより良い演出方法を検討していく。

■ 連員の確保

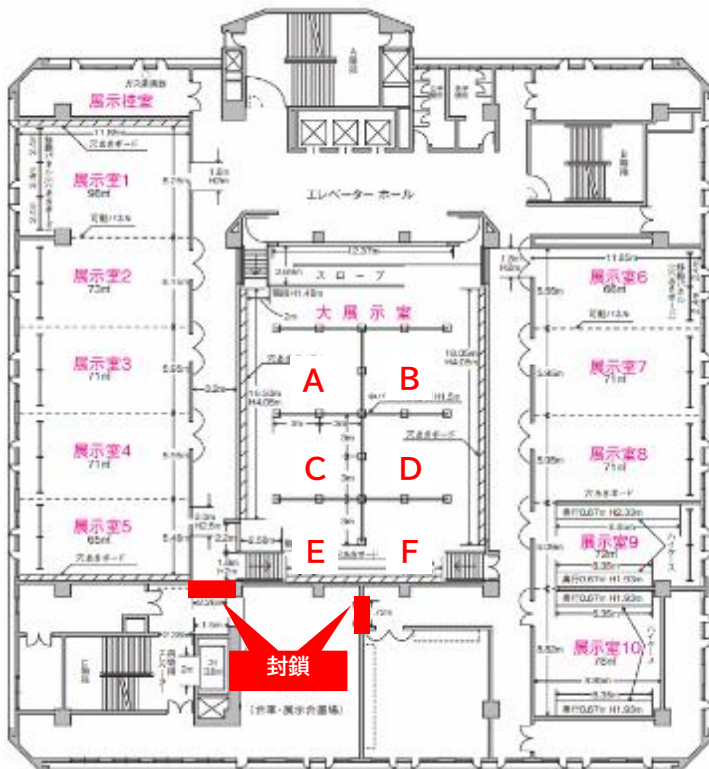
連員の中で医療、介護、銀行やサービス業に従事する者は、このネクストモデル事業への参加を自粛するよう求められた。このような状況で本番に参加できる連員の確保に向けて検討していかなければならない。

■ 本番時に企業連を帯同するときの間隔保持の対応

■ 広めの着替え等ができる事務所の確保

(2) 控室

- 十分な広さが保たれた控室を確保するため、あわぎんホールの3階をフロアごと貸し切った。
- 控室の入室には事前に交付した「バックステージパス」の提示を求めた。
- 出演者間で感染が拡大しないよう、できる限り出演団体単位で独立した部屋を確保した。



大展示室

- 面積 370m² ● 高さ 5m(中パネル 3.3m)
- 内周 46.29m ● 中パネル 102m
- 床 塩ビシート

A 展示室 (展示室 1～5)

- 面積 378m² ● 高さ 3.3m
- 壁面 154m ● 床 塩ビシート

B 展示室 (展示室 6～10)

- 面積 358m² ● 高さ 3.3m
- 壁面 122m(ハイケース含む)
- 床 タイルカーペット
- 展示室 9・10 ハイケース設置

展示控室

- 面積 40.85m² ● 高さ 3.4m
- 湯沸設備、受付用机・イスが備えてあります。

荷解室

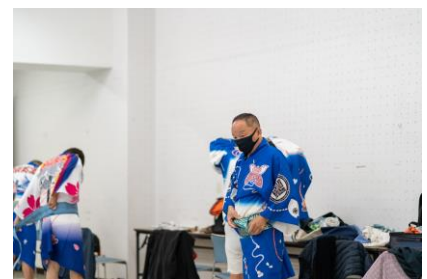
- クサリ、Sカン、カギ型フック、台車、脚立、展示台、展示用スポットライトを備えてあります。



入室時には出演者も健康チェック



連ごとに控室を確保



マスクを着用したまま着替え

■ 控室への入場時の混雑について

集合時間がどうしても集中するため、時間帯によっては受付での混雑が生じた。

特に、今回は「パス確認→名簿チェック→検温→体調チェック→上着用ビニール袋の交付→パスに袋番号転記→入場」という複数のオペレーションが必要であったため、作業の簡略化によりよりスムーズに入場できる方法を検討しておく必要がある。

■ 本番時における控室の確保について

今回は感染症対策の一環として主催者が控室を確保したが、例年の阿波おどりでは連が自前で控室を確保している。

本番において全出演者の控室を主催者が確保することは現実的に難しく、個別の対応に委ねると感染症対策が十分であるか確認できないことに加え、会場までの動線もバラバラになってしまうため、本番時にどうやって控室を確保するか検討が必要である。

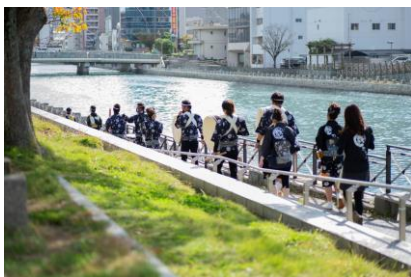
(3) 踊り連の移動

- あわぎんホール出演者控室から、新町川沿いの遊歩道を通って連を誘導した。
- 移動中にカメラマンに囲まれる危険性があったため、スタッフが先導し出演者の安全確保を行った。
- 出演者は移動中のマスク（またはマウスガード）の着用を徹底した。

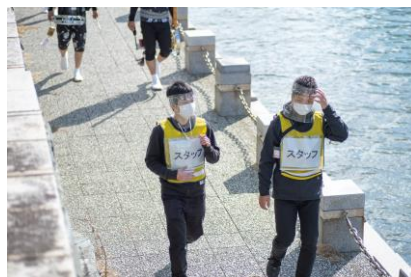
往路（控室→演舞場）



復路（演舞場→控室）



川沿いの遊歩道から連を誘導



連を先導するスタッフ



マスクを着けて移動する踊り手

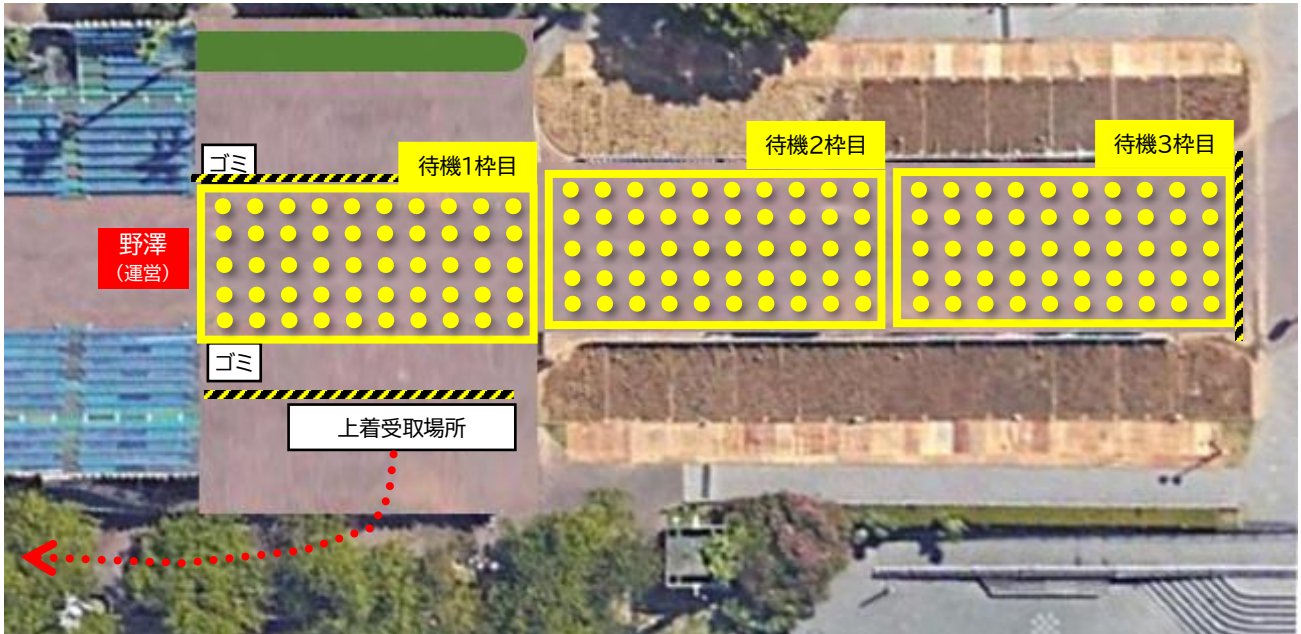
実証結果と課題

■ 本番時における控室と動線の確保について

今回は出演者が1日最大400人程度であったため、あわぎんホールで全出演者の控室を確保することができたが、本番はさらに多くの出演者がいるため主催者側で全員分の控室を確保することが難しい。一方で連ごとに控室を確保すると、演舞場までの動線をどう確保するかが課題となる。

(4) 踊り連の待機

- 踊り連と観客の動線を分離し、入口付近で接触することがないようにした。
- 整列の目安とするため、入場口に1.5m間隔でマーカーを設置した。
- 藍場浜演舞場であれば、規制エリア内の入口で最大200人程度を待機させることができた。



地面に整列用のマーカーを設置



整列風景



前後の間隔も確保

実証結果と課題

■ 規制エリア内における待機場所の確保について

演舞場入場口における出演者待機場所について今回は1.5m間隔でマーカーを設置したが、踊り手からは2m間隔でマーカーを設置して欲しいという意見も出ており、その場合はさらに待機可能な人数が減少するため、1連当たりの最大人数を設けることも検討が必要である。

(5) 演出方法

- 徳島県阿波踊り協会はすべての出演者がマスク又はマウスシールドを着用し、掛け声も控えた。
- 阿波おどり振興協会はマスクやマウスシールドを着用せず、掛け声も出したが各出演者の距離を2m以上確保するとともに、踊り手同士や観客と向き合っでの掛け声を控えるなど演出方法の工夫を行った。



マスク（男踊り）



マウスシールド（ハッピー踊り）



マウスシールド（女踊り）



フェイスシールド（笛）



マスク姿の鳴り物



連の手拭いをマスク代わりに



2mの距離を保って演舞



総踊りもソーシャルディスタンス



踊り手と観客の距離を確保

■ 本番時における出演者個人の感染症対策について

今回のイベントではフェイスシールドやマウスシールド、マスク、ソーシャルディスタンスなど、出演者も様々な工夫を凝らしながら感染症対策を講じた。

しかしながら、いずれの対策にもメリットとデメリットがあり、また、夏の本番時には採用が難しい対策もあることから、本番に向けて出演者個人の対策をどのように講じるかは、科学的な知見も踏まえた検討が必要である。

対策方法	メリット	デメリット
 <p>フェイスシールド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 目の粘膜からの感染が防げる。 ● 無意識に目を触ったり、マスクと併用した際にマスク表面を触ったりする機会を減らすことができる。 ● 消毒殺菌することで再利用が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏場のフェイスシールドは熱がこもるため熱中症のリスクが高まる。
 <p>マウスシールド</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 表情全体や口の動きなどが分かる。 ● 化粧をしても装着できる。 ● マスクに比べて楽に呼吸ができる。 ● 大きな飛沫の拡散は軽減できる。 ● 消毒殺菌することで再利用が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ● マスクと比較した場合、飛沫拡散防止効果は低いと考えられる。
 <p>マスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ある程度の大きさのアεροゾルの侵入を防ぐことはできる。 ● 大きな飛沫を出しにくい。 ● 口や鼻に直接手指が触れることが少なくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏の着用は熱中症のリスクが上昇する。 ● 出演者の表情が見えなくなる。 ● 化粧をしている出演者は着用が難しい。
 <p>ソーシャルディスタンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染対策の面からは物理的な距離を取ることが最も効果的。 ● 物理的な距離(1 m以上、できれば2 m.)を確保できるのであればマスクもフェイスシールドも本来は不要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 演舞場内に一度に入場できる出演者数が限られる。 ● ふとした瞬間に距離の確保がおろそかになる恐れがある。

■ 掛け声に関して

来場者アンケートでも「掛け声のない阿波おどりは迫力がなくて魅力に欠ける」という意見が多く出された。踊り手とのソーシャルディスタンスを確保するため観客席の前2列を空けていたが、「声を出す＝感染が広がる」というイメージを持つ方もいるため、演舞中の掛け声については演出方法も踏まえた検討が必要である。

5 検証結果③「運営」

(1) 検温・体調確認

- 検温所に体調申告事項を記載したボードを設置し、該当する場合は入場を控えるよう呼びかけた。
- 検温にはサーマルカメラを使用し、体温確認に異常がある場合は非接触型体温計で再検温を実施した。
- 体調不良者を受け入れるための救護所を設置し、看護師が常駐した。
- 「チケットのもぎり＝体調申告事項への同意」とした。



入場口での体調確認



体調不良者を受け入れる救護所



チケットもぎり＝体調申告の同意

次の事項に該当する方は 入場できません

- 1 体調がよくない場合
(発熱、咳、咽頭痛、倦怠感、味覚・嗅覚異常など)
- 2 同居家族や身近な知人に感染が疑われる場合
- 3 過去14日以内に政府から入国制限等を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- 4 「COCOA」により感染者との接触が通知されている場合

検温所の告知ボード

チケットを使用すると次の事項に同意したことになります

- 1 咳、のどの痛みなど風邪症状がないこと
- 2 味覚・嗅覚に異常がないこと
- 3 強い倦怠感がないこと
- 4 「COCOA」により感染者との接触が通知されていないこと

チケットもぎり場所の告知ボード



入場者には注意事項が記載されたチラシ入りマスクを配布

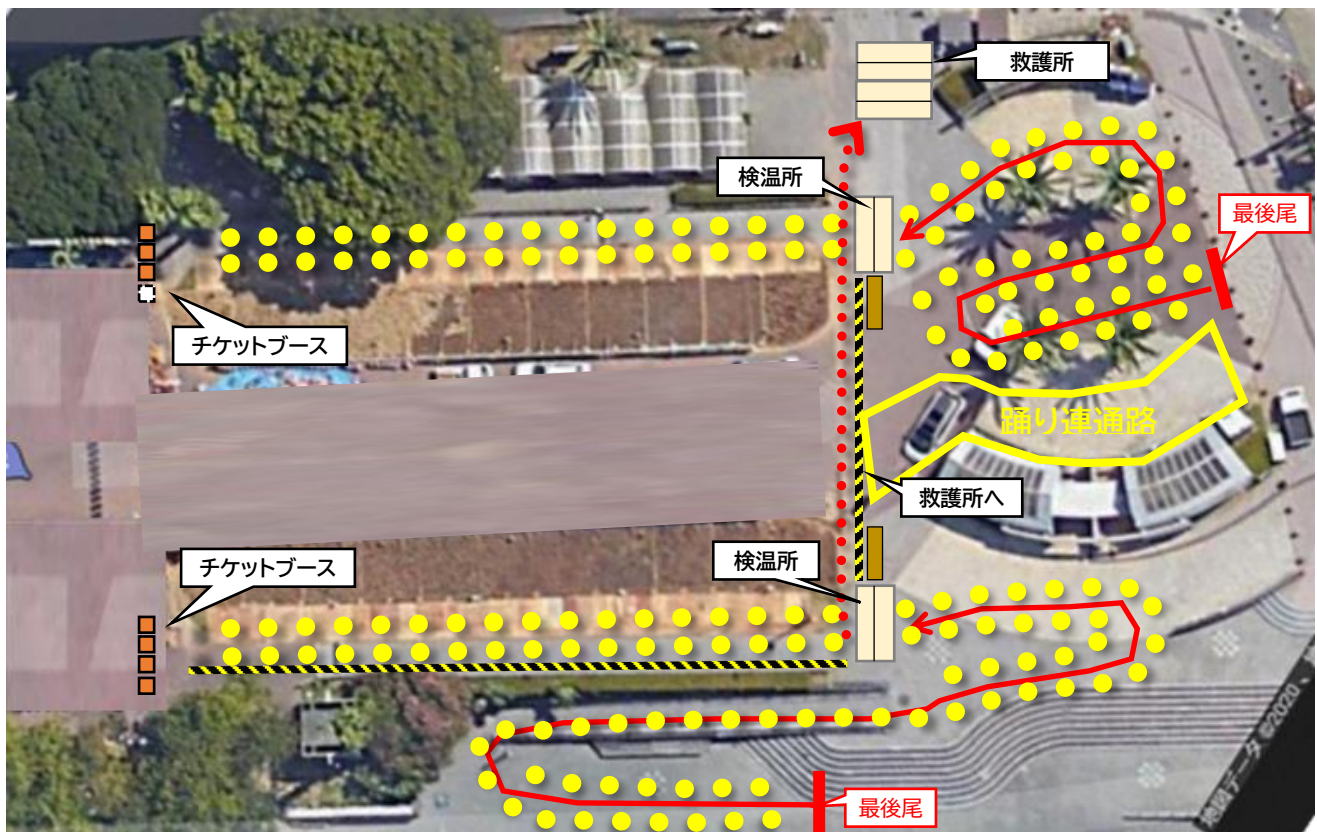
実証結果と課題

今回のオペレーションで大きな問題はなかったため、本番も同様の対応で良いと考えられる。

なお、仮に体調不良者が多く発生した場合は現場の混乱は避けられないため、スタッフの応援体制を構築しておく必要がある。

(2) 観客の入場

- 会場全体の入場規制を行ったため、会場入口に検温所を設けるとともに、通常の阿波おどりでは栈敷入口に設けているチケットブースを会場入口に集約した。
- まず検温所で検温及び体調確認を行い、クリアした者のみチケットブースへ進めることとした。
- 検温所は3列×2か所（国道側、川側）の6列編成、検温所からチケットブースへ至る動線は2列×2か所の4列編成とした。
- 検温所で異常があった者は救護所へ誘導するレイアウトとした。



サーマルカメラでの検温



検温所からチケットブースへの動線



デジタルチケットは目視確認

■ カラーコーンでの入場規制について

会場の入場規制を行うためカラーコーンとバーを設置したが、どこでも容易に跨げることから至る箇所に警備員を配置する必要があったため、入場規制の方法を見直す必要がある。

■ 再入場のルール化について

会場全体の入場規制を行ったため、原則として再入場不可としたが、観客にとって近くにある公園内のトイレなど既存の設備を利用できないなどのデメリットが生じたことから、再入場を効率的に行える仕組みを検討する必要がある。

■ チケットもぎりスペースの確保について

入場規制を行う関係からチケットもぎりスペースを入場口に集約したが、植え込みなど会場の構造上、十分なもぎりスペースの確保が難しい箇所もあった。

また、デジタルチケットを導入した場合は電源が必要となるが、本番は夜間の開催であるためコードに足をひっかける恐れもあることから、各会場の実情に応じて安全なチケットもぎりスペースを確保する必要がある。

■ 観客の動線について

今回のイベント開催については、公園全体を規制することは不可であるとして、南北にそれぞれ公園利用者の通路を設けるよう指導があった。そのため、特に新町川側の検温所からチケットもぎり場所に至る観客用の通路が狭くなった。

■ 屋台設置スペースについて

今回のイベント開催については、会場全体の入場規制を行うとともに、検温所、踊り連の移動ルートや十分な広さの踊り手待機のためのスペースを確保する必要があったことから、会場内およびその付近に屋台設置スペースを確保することは難しかった。屋台の出店等により結果的に密集状態が発生する可能性もあることから、出店スペースや数については出演者及び来場者等の動線も考慮し、慎重に検討する必要がある。

③ デジタルチケット

- 本イベントではチケットぴあのデジタルチケットシステムを採用した。通常は有料で販売するものであるが、今回は実証イベントのため発券手数料を含めて無料とし、座席整理券として発行した。
- デジタルチケットの販売経路はオンラインのみとして、抽選方式を採用した。
- 既にサービスとして開始されているデジタルチケットシステムに加え、開発途中である顔認証チケットについても一部テスト実施した。

総入場者数

公演日	部	一般	来賓等	取材関係	合計
11/21 (土曜)	1部	638	27	28	693
	2部	587	22	23	632
11/22 (日曜)	1部	657	26	18	701
	2部	618	20	11	649
合計		2,500	95	80	2,675

1. 抽選結果のご連絡



メールにて当選結果の発表

2. ぴあCloakにアクセス



Cloak画面上で、電子チケットで引き取るを選択

3. Quick Ticketの発券 (券面上に健康管理チェックリストを表示)



- ・発券された電子チケットを開く
- ・健康管理チェックリストのURLより体調管理のチェック

4. 入場もぎり



現地でもぎり画面を表示して、お客様がジェスチャーもぎりを行う



チケットブースにスタッフを配置



通常チケットは目視確認



顔認証チケットはiPadで確認

■ デジタルチケットに対応できない来場者について

今回は実証イベントとしてデジタルチケットのみの対応としたが、スマートフォンの保有が必須であることなどの課題も生じた。

より多くの方々にアプローチするためには、紙チケットの発行も並行して実施できる仕組みづくりが必要と考えられるが、紙チケットを発行する場合でも、従来の阿波おどりチケットのようにもぎりのアクションを必要としない方式が望ましいと考えられる。

結果的に多くの申込みがあったが、オンラインでの申込方法が分からないため断念した方も多数いるものと想定される。

従来の阿波おどりであればコンビニでの販売が主であったが、今後、デジタルチケットの導入を拡大していくためには、チケットの販売方法についても検討が必要である。

■ 団体販売への対応について

今回のチケットは個人に対する一般販売のみを想定したものであり、旅行代理店等に対する団体販売については検討が必要である。

今回のように、同伴者が3人まで入場可能という仕組みでは団体に対応不可能であるため、団体販売にもデジタルチケットを導入する場合、入場口のあり方も含めて別のオペレーションを検討する必要がある。

■ チケットもぎり時におけるスタッフとの距離感について

チケットもぎり時の接触機会を削減するため、チケットをもぎる際はスタッフがスマートフォンの画面を目視確認し、観客本人が画面をタッチしてもぎりのアクションをしてもらうこととした。

しかしながら、スタッフが近づいて画面をのぞき込まざるを得ず、スタッフとの距離感に不安を感じる観客もいたため、機械で処理が完結する方式が望ましい。

(4) 観客席の配置

- 観客同士のソーシャルディスタンスを確保するため、従来の阿波おどりの桟敷席からは左右を3席分空けた座席レイアウトとし、前後も重なり合わないよう配置した。
- 観客と踊り手の距離を保つため、前から2列分は空席とした。

【従来の藍場浜演舞場】

座席数 ⇒ S席：2,155席、A席：1,198席、B席：942席、C席：614席 合計：4,909席
座席幅 ⇒ 指定席：45cm幅、自由席：40cm幅、前後は70cm間隔

【今回のイベントにおける座席レイアウト】

- -
 -
 -
- ・左右を3席分開ける
 - ・隣との距離は135cm、斜め前とは約150cm
 - ・想定客席数890席
(総座席数の約1/5)



3席飛ばしのレイアウト



前2列を空けて踊り手との距離を確保



本部署はフェイスシールドを着用

実証結果と課題

■ 座席を移動する観客が多数発生した

来場者アンケートでは「決められた座席から移動して座っている人が多かった」という意見が多く出されている。同じグループでも距離を空けて座るようアナウンスしたが、ルールに従わない一部の観客もいたため、客席の移動を抑制する遵守事項の表示等の方策について検討が必要である。

(5) 観客の退場

● 退場方法の検証を行うため、公演ごとに次のパターンの退場方法を実施した。

- i 出口に近いA席→S席→B席の順番に全員出口から退場
- ii 前から2列ずつ順番に全員出口から退場
- iii A席とS席出口寄りには出口側、B席とS席入口寄りには入口側から退場
- iv 全員一斉に退場（特段制限しない）



時間差での退場を案内



観客は中央の通路から退場



退場口では混雑が発生

実施結果と課題

■ 退場方法について

4パターンでの退場方法を検証したが、席種（S席・A席・B席）ごとに退場させる方法は、自分の席種や座席番号を分かっていない観客が多く、若干の混乱が生じた。特に今回は有料チケットでなかったため、席種に関する認識が薄かったことも要因と考えられる。

なお、来場者アンケートにおいても退場方法は「問題があった」と答えた方の割合が最も高い項目であり、「退場時は混雑したため分散退場させるべき」という意見も出されていることから、本番では分散退場を基本としつつ、より効率的に退場を促せる方法を検討する必要がある。

■ 公演終了前に退場する観客について

公演の終了が近づくとアナウンスを待たずして退場しようとする観客が発生し、本来の退場経路である演舞場中央ではなく、通路が狭い敷席後方から退場しようとするケースがあった。

公演開始前にも案内があるまで席を立たないようにアナウンスを行ったが、公演終了時には忘れてしまう観客もいたため、スタッフによる誘導方法や案内看板の設置なども検討する必要がある。

(6) 仮設トイレの設置

- トイレが感染源となりやすいと国からも指導されていたため、トイレで密にならないよう仮設トイレを20基（国道側10基、新町川側10基）設置し、トイレの横には手洗い場を併設した。



仮設トイレ（国道側）



仮設トイレ（新町川側）



トイレには手洗い場を併設

実証結果と課題

■ 公園内のトイレの利用について

入場規制を行った関係から仮設トイレのみで対応したが、本番では既存の公園トイレも利用できる方法を検討する必要がある。

■ 仮設トイレの設置場所について

新町川側については踊り連との動線が重ならないよう、演舞場後方の観客通路に仮設トイレを設置したが、元々の通路幅が非常に狭く、設置場所を確保することが困難であったため、他の演舞場も開設するのであれば設置場所を確保できるか事前に検討しておく必要がある。

■ 本番時の仮設トイレの種別と設置基数について

従来は和式トイレを仮設していたが、今回は便座を消毒可能な洋式トイレとした。

感染症対策の面では、周囲に飛び散りやすい和式より洋式の方が望ましいが、設置費用が割高となり、専有面積も増えるため、設置場所の確保と経費を考慮し、種別と設置基数を決定する必要がある。また、不特定多数の方が扉のノブ等に触れるためトイレ入口にも消毒液の設置が必要である。

(7) 会場の清掃・消毒

- 清掃の専門スタッフを 6 名配置し、観客入替時にすべてのベンチシートのふき取り消毒を行ったほか、仮設トイレについても 30 分に 1 回以上の定期的な清掃・消毒を実施した。



清掃専門スタッフを配置



観客入替時に全ベンチシートを清掃



30 分に 1 回以上は仮設トイレも清掃

実証結果と課題

今回のオペレーションで大きな問題はなかったため、本番も同様の対応で良いと考えられる。

⑧ 参加連の募集

募集内容

■ 申込期間

令和2年11月2日（月曜）～6日（金曜）

■ 申込条件

- 実行委員会が策定する「新型コロナウイルス感染症対策実施マニュアル」に沿った対策を実施すること。
 - ・ 出演連員名簿の作成及び提出
 - ・ 所属連員の体調チェックリストの作成及び提出（※ 毎日チェックすること）
 - ・ マニュアル実施状況チェックリストの作成及び提出
- 原則として単連での出演が可能であること。なお、出演人数が確保できないなどの場合は、他の連と合同で出演することも可能だが、その調整は自ら行うこと。
- 今回のイベントに出演できる連は、徳島県内に活動の本拠を有する連に限る。
- 申込多数の場合は申込を受けられない場合がある。

申込状況

4連（88人） 一心大道、美粋遊、きずな、舞きょう連

実証結果と課題

■ 本番時の連の参加について

今回のイベントでは一般連の参加募集を行ったが、結果的に4連のみの申込みに留まった。

新型コロナウイルス感染症が収束する前の段階でどれだけの連が阿波おどりに参加を希望するかが不透明であり、演舞場をどれだけ設けるかの判断が難しい。

9) 取材の受付

受付内容

■ 申込期間

令和2年11月2日（月曜）～11日（水曜）

■ 遵守事項

- 取材・撮影エリアが限られているため、記者は1社につき1名とします。
- カメラクルーなど2名以上の配置が必要な場合は事務局にご相談ください。
- 申込多数の場合、取材日又は公演数を制限する可能性がありますのでご了承ください。
- 取材日当日に37.5度以上の発熱がある場合や咳、倦怠感などの症状がある場合は、会場への入場をお断りすることがあります。また、会場内ではすべての撮影スタッフが、マスク及びフェイスガードを着用してください。
- 原則として取材は定められた取材・撮影エリアからのみ行ってください。許可なく観客や踊り手に接近して取材することは固く禁じますのでご注意ください。
- その他主催者の指示には必ず従ってください。

申込状況

15 報道機関、39 名（記者 14 名、カメラマン 25 名）

実証結果と課題

■ 遵守事項を守らないケースについて

今回のイベントでは、メディアも感染症対策を徹底してもらう必要があったため、申込要領において遵守事項を明記し、事前確認した上で申し込むよう促したが、現場ではルールを守らないメディアもいた。具体的なルール違反の事例としては次のようなケースが見受けられた。

- ・ フェイスシールドを着用していない者がいた。なお、持参を基本としていたものの、大半が持っていなかったため受付時に交付したが、それでも装着しない者がいた。
- ・ 公演時間中に指定エリアを超えて取材や撮影を行っていた。
- ・ 公演時間中に観客席を移動し、観客の視線を遮っていた。
- ・ 公演終了後に演舞場内で観客に対するインタビューを行っていた。
- ・ 入場口に整列している踊り手の列に入って撮影を行っていた。
- ・ 踊り手を退場口で待ち受けて撮影を行っていた。
- ・ 遊具前に人がたまらないようにする目的で目隠しを設置していたが、脚立を使って目隠しのさらに上から撮影を行っていた。

6 次年度に向けた改善アイデア

(1) 観客に関するアイデア

会場レイアウト

① 入場規制方法の見直し

今回は会場の入場規制を行うためカラーコーンとバーを設置したが、どこでも容易に跨げることから至る箇所に警備員を配置する必要があったため、本番ではカラーコーンではなくバリケードを使用し、再入場を認める箇所のみカラーコーンとするなどとしてはどうか。

ただし、カラーコーンは実行委員会が大量に所有しているが、バリケードは所有しておらず追加経費が発生するため、経費面での検討も必要である。



入場方法

① 使い捨てリストバンドの交付

再入場をスムーズにするため、検温及びチケット確認が完了した者に対して使い捨てリストバンドを交付し、所定の場所からであれば検温不要で再入場可能としてはどうか。



観覧チケット

① 紙チケットの発券

今回は実証イベントであるためデジタルチケットのみで対応したが、来場者管理は電子的に行わなければ現実的には不可能である。しかし、より多くの方々にアプローチするためには、紙チケットも並行して発券できるシステムの構築を検討してはどうか。

② 対面販売所の開設

今後はオンラインでのチケット販売が中心になると想定されるが、オンラインでの購入は難しい客層も相当数存在しているため、特に市内については対面販売所を開設して紙チケットの発行にも対応できるようにしておいてはどうか。

③ オンライン販売と対面販売の価格設定

オンラインと対面でチケットを購入する場合、オンラインはシステム利用料が発生することから、現在は対面販売の方が安価にチケットを購入できる。

しかしながら、対面販売所での感染リスクの低減という観点からも、オンラインで購入した方が観客にメリットがある価格設定としてはどうか。

観客席の配置

① 濃厚接触とならない範囲での座席レイアウト

厚生労働省によると、濃厚接触者とは「対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（1 m以内）で15分以上接触があった場合」と定義されており、今回は実証イベントであったため観客と観客の間を広く確保したが、本来は左右の間隔を1 m確保すれば問題ないと考えられるため、もう少し客席の間隔を詰めたレイアウトとしてはどうか。

② 家族などの同一グループをセットにした座席の設定

チケットの発券が可能であるか検討を要するが、来場者アンケートでも家族など同一グループの者は固まって座らせて欲しいという意見が多く出されており、升席のような形でのチケット販売が可能か検討してはどうか。

また、そうした場合、前後の間隔を確保することは難しいため、例えば列単位で席を飛ばすような対応が必要になるかもしれない。

③ 客席間の移動制限

来場者アンケートでも席を移動する者が多かったという意見が出されており、客席間の移動を制限するため、例えば空席としている部分には「使用不可」の張り紙や、遵守しない場合のペナルティの表示など、何らかの対策を講じてはどうか。

① 列を基準とした分散退場について

今回検証を行った4パターンの中で最もスムーズに案内できたのは、前の列から順番に退場を促す方法であった。今回の人数で退場に要した時間は概ね5分であったため、仮に倍の観客を入れたとしても10分程度で退場させることは可能と考えられる。

なお、退場口も1か所に集約するのではなく、入口に近い観客は入口方面に、出口に近い観客は出口方面に退場を促した方がより密集を回避できると考えられる。

② 公演終了前の退場者の抑制について

公演が終了する前に退場しようとする混雑が発生するため、機軸後方につながる階段口には終了5分前からスタッフを配置する、または観客席内に案内版を設置するなど、公演終了後のアナウンスに従って退場するよう促す体制を検討しておく必要がある。

③ アルコール消毒液の増設と設置場所の変更について

観客の退場口にもアルコール消毒液は設置していたが、数が少なかったという意見も寄せられている。特に退場口にはより利用しやすい場所にアルコール消毒液が設置されるよう、増設または設置場所の変更を検討する必要がある。

(2) 踊り手に関するアイデア

控室

① 控室基準の作成及び届出

各連が使用する控室について遵守すべき基準を作成し、基準に合致した控室が確保できることを事前に届け出てもらうこととしてはどうか。

踊り連の待機

① 入場口付近における雑踏の解消

チケットを持っていない人が、待機場所に整列した踊り手を撮影しようとして入場口付近に密集していた。この雑踏を解消するには整列した踊り手を撮影できないようにする必要があるため、公園全体に入場規制をかけるか、それが困難であれば待機場所を囲むようにバリケードを設置するなどの対策を取ってはどうか。

② 1連当たりの出演人数

今回の藍場浜演舞場でも規制エリア内に整列可能な人数は最大 200 名程度であった。

例年の阿波おどりであれば 300 人を超える連もあるが、観客と交わずに待機するスペースを確保することは困難であるため、踊り団体の意見も踏まえながら、1 連あたりの出演人数を検討してはどうか。

演出方法

① 演舞場内での感染症対策基準の作成と公表

今回の演舞はあらかじめ作成した感染症対策マニュアルに基づき、各連（協会）においてマニュアルを踏まえた演舞を行ったものであり、1 日目と 2 日目の対策に差があったという意見も寄せられているが、いずれもマニュアルの範囲内で行われたものであった。

その一方で、どこまでが最低限守るべきルールとして徹底されているのか分かりにくかったという指摘もあることから、演舞場内で最低限出演者が守るべきルールをあらためて設定し、観客に対しても事前周知しておくことが望ましいと考えられる。

① 体調確認チェックリストのオンライン化

今回のイベントではすべての出演者に体調確認チェックリストの作成を義務付けたが、阿波おどり本番で同様の対応を行うためには、主催者にとっても、連にとっても非常に多くの事務負担が生じる。チェックリストを作成する目的は、練習時からの日々の体調管理や感染症対策を徹底する意識を持ってもらうことであり、書類を作成すること自体が目的化してはならないと考えられる。

特に紙でやり取りをする場合、用紙を何百人もの出演者に配布し、回収することが本番では不可能であると思われるため、体調確認チェックリストのオンライン化を検討してはどうか。

【具体的な事例】

一般財団法人日本フットサル連盟「スマートヘルスマネージャー」

日本フットサル連盟のガイドラインでは試合前 2 週間にわたる毎日の検温及び体調の記録と、その報告を義務付けているが、紙ベースでの記録・報告では、選手やスタッフ個人への負担に加え、個人情報漏洩リスク、日次での対応漏れ、少人数で運営するクラブへのガイドライン運用負荷などが懸念されていた。

そこで、人的・金銭的な負担を最小限にとどめながら課題をスピーディーに解決するため、チャットボットとの対話的な入力により、簡単に検温や体調を記録・報告できる健康管理アプリケーション「スマートヘルスマネージャー」を構築した。



主な機能

- ワンタッチで簡単に検温・体調の記録が可能。
- 体温チェックと 8 つの質問を対象者へ毎日自動的に送信。
- 対象者全員の 14 日間の検温記録や体調レポートをワンクリックで閲覧可能。
- スタッフミーティングのための通話機能や情報共有のための掲示板機能など。

(3) その他に関するアイデア

参加連の募集

① 次年度における出演意向アンケートの実施

感染症の状況により不透明な部分はあるが、現時点で各連（企業連や一般連を含む）の出演意向についてアンケートを実施し、その結果を踏まえた会場数を設定してはどうか。

取材の受付

① 取材誓約書の提出

取材申込を行う際に、取材ルールを遵守する旨の誓約書を提出してもらってはどうか。